

GABRIELE D'ANNUNZIO



一体ダンヌンツィオとはだれか？今の日本で答えられる人は少ないかもしれません。この20世紀初頭のイタリアの詩人・小説家・劇作家は、生前フランスやアメリカでも広く読まれた国際的流行作家でした。今年はその生誕150周年。イタリアでは記念コインや切手も発行されています。

ダンヌンツィオ作品は、日本でも英語等の翻訳を介して、上田敏、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、生田長江、有島生馬など、日本近代文学史上、蒼々たる作家たちに読まれ、愛され、訳されました。漱石門下の文学者、森田草平の場合、ダンヌンツィオの小説『死の勝利』に夢中になり、その主人公を模倣するような平塚雷鳥との塩原温泉心中未遂事件を起こしました。三島由紀夫の作品や晩年の行動にダンヌンツィオの影響が見られると

も言われます。

ダンヌンツィオは、同時代のヨーロッパの最新の思潮や風俗を作品に取り入れ、人生においても独自の審美的スタイルとファッションを演出しました。そして、黎明期の自動車や飛行機を愛し、自分で運転・操縦。さらに、映画、広告など新しいメディアに関わった、まさに大衆化する新しい20世紀文化とともに歩み、リードした作家だったのです。

I 本展覧会は2部構成。第1部は「人生と文学」をパネルで紹介、生前の愛用の品々をあわせて展示します。ダンヌンツィオの人生と美学の集大成だった晩年の家ヴィットリアーレは、現在、博物館・研究センター・公園となっています。本展は「ヴィットリアーレ」財団との共催です。今回ヴィットリアーレから

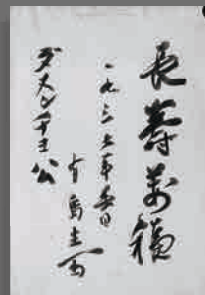


やってくるのは、ダンヌンツィオ愛用のスーツ、靴、ペン立てなど。びっくりするモダンな美しさです。卓越したファッション・センスにおいてもイタリアン・ダンディの先駆で、そのイメージを世界に発信しました。このイタリアン・スタイルの父、ダンヌンツィオの美学を、今回日本で初めて紹介することになります。



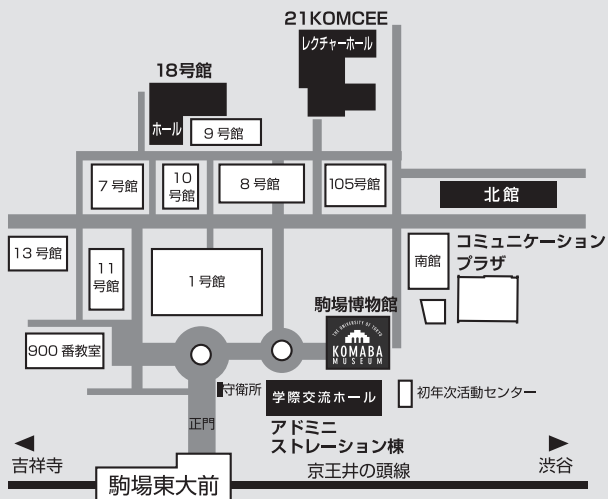
II 第2部は、「ダンヌンツィオと日本」をめぐるもの。青年時代の日本趣味、1920年ダンヌンツィオ計画の初の日欧間連続飛行であったローマ・東京連続飛行（飛行地図、新聞記事、飛行機の模型等）、日本の知識人たちのダンヌンツィオ作品の受容がテーマです。日本からヴィットリアーレを訪れた有島生馬や生田長江らの自筆書簡、カルピス社創業者三島海雲はじめ日本の文化人から

届いたファン・レターなどが里帰りして、大正から昭和初期の文化風俗の忘れられていた側面を伝えます。



関連企画（いずれも無料・予約不要、東京大学駒場1キャンパス内）

- ・ギャラリートーク1 「ダンヌンツィオー人生と(いう)作品」
講師：村松真理子（本学准教授）
10月19日（土）16:15～16:45 駒場博物館1F展示室
- ・ギャラリートーク2 「ヴィットリアーレー作品としての家」
講師：宮坂真紀（本学非常勤講師）
11月16日（土）14:00-15:00 駒場博物館1F展示室
- ・ギャラリートーク3 「ダンヌンツィオと世紀末パリのジャポニスム」
講師：高階絵里加（京都大学人文科学研究所准教授）
11月30日（土）14:00～15:00 駒場博物館1F展示室
- ・高校生のための金曜特別講座「ダンヌンツィオって誰？」
講師：村松真理子
10月25日（金）17:30～19:00（17:00開場）18号館ホール
- ・演奏会「ダンヌンツィオの詩、トスティの歌」（解説つき）
テノール：小川桂一郎（本学教授） ピアノ：大澤悠子 解説：村松真理子
10月28日（月）16:30～18:00 音楽実習室（コミュニケーションプラザ北館2F）
- ・国際シンポジウム「ダンヌンツィオに夢中だった頃 —国際詩人の軌跡と Mishima が交わるとき—」
講師：ジョルダノ・ブルーノ・グエッリ（ヴィットリアーレ財団長）
井上隆史（白百合大学教授） 司会：村松真理子
11月2日（土）15:00～18:00 学際交流ホール（アドミニストレーション棟3F）
- ・東京大学2013第64回駒場祭 博物館特別講座
「鷗外、漱石、三島も読んだダンヌンツィオ」 講師：村松真理子
11月23日（土）10:30～12:00 21 KOMCEE レクチャーホール



お問い合わせ先
東京大学 駒場博物館
住所：153-8902 東京都目黒区駒場 3-8-1
Tel: 03-5454-6139 Fax: 03-5454-4929
ホームページ：http://museum.c.u-tokyo.ac.jp/